



## PATHOLOGY MASTER



湿疹、皮膚炎・外傷・水虫

湿疹、皮膚炎・外傷・水虫

PATHOLOGY  
MASTER



くすりと漢方の  
スペシャリスト協会

協会公式サイト



一般社団法人 くすりと漢方のスペシャリスト協会  
〒900-0012 沖縄県那覇市泊2-1-18 T&C泊ビル 4F  
mail info@kks-otc.com  
web <https://kks-otc.com/>

\*当協会に無断で、このテキストの譲渡・転載・複製・模倣・印刷・配布・販売などを行うことを固く禁止いたします。  
Copyright © 2023 くすりと漢方のスペシャリスト協会 All Rights Reserved.

病態マスターコース／湿疹、皮膚炎・外傷・水虫

目次

01 湿疹、皮膚炎・外傷・水虫

虫刺され、湿疹、蕁麻疹、かぶれ、皮膚炎

10 細菌や真菌、ウイルスによって起こる皮膚炎

15 外傷

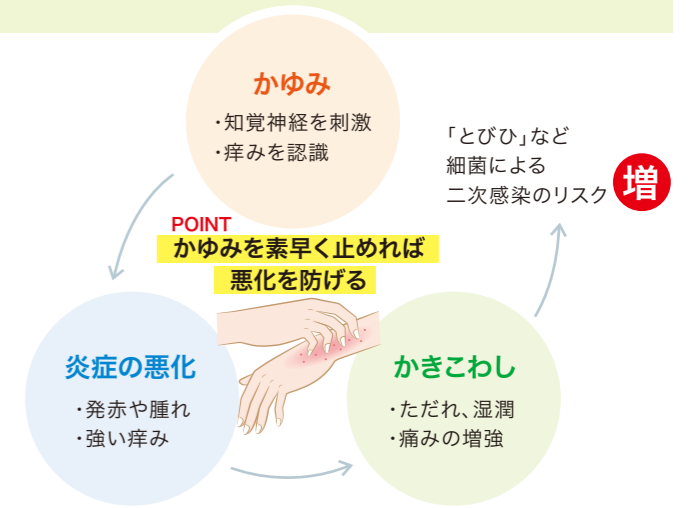
18 皮膚外用薬に配合される主な成分

20 皮膚外用薬を選ぶ時・販売する時のポイント

21 接客事例のワーク

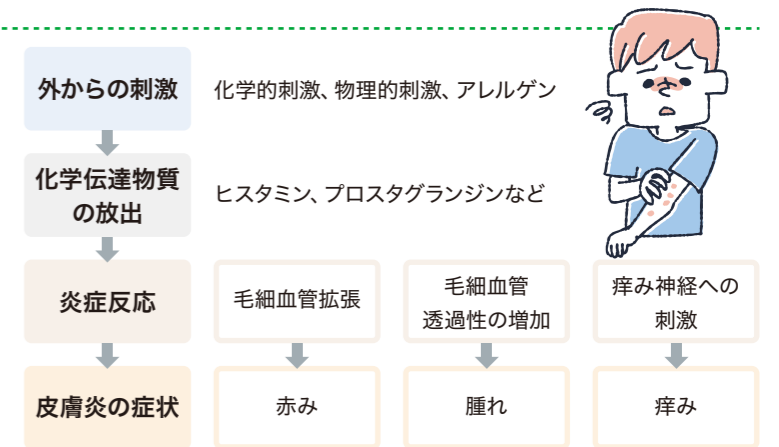
✔️ 店頭で多い相談

皮膚疾患の相談がもっとも多いのは、「かゆみ」です。掻くことで患部の炎症が拡大するため、まずは「かかない」ようにすることが大切です。擦り傷などの外傷でも、治る過程において痒みが出ることは珍しくありませんし、その他にも、かぶれや汗疹、虫刺され、湿疹など、痒みを生じる皮膚疾患はたくさんありますね。「かゆみ」は皮膚疾患の代表的な症状といえます。ステロイド成分を含む製品や抗真菌薬などは、使用する上で注意が必要です。販売後に正しくお薬が使用されるよう、家庭でのケアの方法や用法用量などについて具体的な情報提供が必要です。ここでは、店頭での相談が多い症状に絞って解説していきます。



◎湿疹、皮膚炎のメカニズム

皮膚炎は、金属や特定の植物、日光などに対するアレルギー反応や、空気の乾燥や寒さ等による皮膚のバリア機能の低下、洗剤などによる化学的刺激、衣服の締め付け等による物理的刺激など、さまざまな原因で起こります。皮膚炎で痒みが生じるのは、皮膚炎の発症に化学物質であるヒスタミンが深く関わっているためです。ヒスタミンが血管を拡張させることで赤みや患部の腫れが起こり、神経を刺激することで痒みを生じます。さらに、炎症が進行する場合にはプロスタグランジンも関わっています。



✔️ 虫刺され、湿疹、蕁麻疹、かぶれ、皮膚炎

店頭では皮膚疾患の患部を見せられて相談されるケースも多々ありますが、もちろん登録販売者は診断は行えません。しかし、ある程度の症状の切り分けができなければ、成分の選択や適切なトリアージが行えません。成分の選択を間違えると患部が悪化することもありますから、日常生活の中で起こり得る皮膚疾患の病態は理解しておく必要があります。ここでは、店頭で遭遇することの多い皮膚疾患について解説していきます。

虫刺され

蚊の虫刺されの相談が一番多いですが、時にはダニやノミ(吸血する虫)、クモやムカデ(咬む虫)や、蜂などの虫に刺されたり、毒蛾や毒毛虫などは羽や毛の一部が皮膚に触れただけで痒みや炎症が起こることもあります。虫が皮膚を刺したり咬んだりした時には、虫が持っている毒成分・唾液成分がアレルゲンとなってからだの中の抗体と反応し、ヒスタミンなどが放出されて痒みや炎症などを引き起こします。つまり多くの虫刺されで見られる痒みは、虫の毒成分などに対するアレルギー反応の一つですので、ステロイド成分や抗ヒスタミン成分などを用いて治療します。

蚊やダニなどは一般的には市販薬の使用で改善していきますが、虫刺されは痒みが強いのが大きな特徴で、痒みが鎮まるまで数日～数週間かかることもあるため、掻き壊して化膿してしまうこともあります。(小さなお子さんの場合は、虫刺されの掻き壊しから「とびひ」へと進行してしまうこともあります。)

虫刺されの中でも最も痒みが強いといわれているのは、**毒蛾皮膚炎**。毒蛾の幼虫の毒針毛が皮膚に刺さり起こる皮膚炎で、店頭でもしばしば相談を受けます。



かゆみ

かゆみ

**症状** 刺された直後はほとんど自覚症状はなく、数時間後からビリビリとしたかゆみが出てきます。

**原因** 毒蛾の毛虫に触れることで起こります。

- 4週間ほどかゆみが続くことがあります。
- 庭や公園などの植物の近くに行った後にかゆみがでた場合、毒蛾皮膚炎を疑います。

写真提供：吉永小児科医院 院長 吉永 隆一郎 医師

## 湿疹、かぶれ

あせもや手湿疹(主婦湿疹)、おむつかぶれ、接触性皮膚炎、脂漏性湿疹、貨幣状湿疹など、皮膚病の種類は非常に多く、原因の特定が難しいこともあります。

## 湿疹や皮膚炎の経過

初期には痒みをとまなう赤い斑点(紅斑)ができ、やがてブツブツ(丘疹)になります。より進行すると、小水疱や膿疱となることも。それらが破れると「びらん・潰瘍」に変化したり、細菌が侵入して化膿性の皮膚炎になることもあります。その後はやがて「かさぶた(痂皮)」となり、かさぶたが剥がれ落ちて(落屑)、治癒に向かうのが一般的です。皮膚炎が慢性化すると、皮膚が厚くなって硬くザラザラした状態(苔癬化)になることもあります。このような症状の特徴や経過を覚えておきましょう。

<p>こうはん <b>紅斑</b></p> <p>皮膚表面の色の変化だけがあり、盛り上がりはない。</p>	<p>きゅうしん <b>丘疹</b></p> <p>表面が半球状に盛上る。</p>	<p>しょうすいほう <b>小水疱</b></p> <p>表皮の中に水分がたまっている。水ぶくれ。</p>	<p>のうほう <b>膿疱</b></p> <p>表皮中の水疱が黄色く濁っている。</p>
<p>びらん <b>びらん</b></p> <p>表皮がただれて赤くなり、欠けてしまう。これが更に悪化すると潰瘍となる。</p>	<p>かひ <b>痂皮</b></p> <p>かさぶたの状態。血液や膿が固まっている。</p>	<p>らくせつ <b>落屑</b></p> <p>角質層が剥がれ、白くフケのように浮き上がっている。触るとポロポロと落ちる。</p>	<p>たいせんか <b>苔癬化</b></p> <p>皮膚が厚みを増し、硬くなって表皮がざらつく。</p>

また、湿疹・かぶれは、水虫やカンジタなどの感染症や虫刺され、その他の皮膚炎との見分けがつかないこともあります。さらには、老人性の皮膚掻痒症などのように、外見は何ら異常が見えないのに強い痒みを訴えるケースや、糖尿病性の皮膚炎など内科の疾患が要因となって起こる特殊な皮膚疾患もあります。

## 接触性皮膚炎

いわゆる「かぶれ」と呼ばれる湿疹で、正常な皮膚と境界線がはっきりしています。原因になる何らかの物質に触れた部分に炎症が起こります。大きく分類すると、虫刺されや洗剤、ヘアカラー、外用薬によるかぶれなど、外部からの刺激によって起こるものと、金属アレルギーやゴムアレルギーなど、その人の体質によって起こるものがあります。痒みを起こしている物質が分かっている場合は、その物質に接触しないようにしないと治りません。

**化学物質・金属**

台所洗剤やシャンプー、ヘアカラー、アクセサリなどの刺激によって起こる痒みです。金属やゴムなど、体質によってかぶれる人とそうでない人がいます。また、病気などで抵抗力が落ちている時は、かぶれやすくなる場合があります。

**植物**

痒みを起こす植物で代表的なのは「ウルシ」。中には、ウルシの木の下を通っただけで痒くなる人もいます。他にも、長芋、スパイスなどの香辛料や、キウイやマンゴーなどの果物に触れて痒みが出る人もいます。



ラテックス手袋(ゴム)、段ボールなどにかぶれていると思われる事例です。



モーラステープ(ケトプロフェン)による光アレルギー性接触皮膚炎



水虫薬による接触性皮膚炎。ジュクジュクした患部に液体の水虫薬を使用して薬剤にかぶれた事例。



熱さまシートによる接触性皮膚炎。シートの形が赤く浮き上がっているのが分かります。

## ビダール苔癬

主に首の後ろなどに好発する湿疹の一種で、慢性的に擦れる刺激をきっかけとして痒みが生じる皮膚疾患を指します。原因はよく分かっていませんが、洋服の衿などの刺激やネックレスなどの金属アレルギー、シャンプーやスタイリング剤の刺激、紫外線など、さまざまな外的な要因が考えられています。痒みが非常に強く、症状が繰り返して出て、治りが遅いのが特徴です。患部が小さければ、ステロイド外用薬の使用で改善することもあります。色素沈着することもあるため、早期に皮膚科で治療を受けていただくようにしましょう。



- かゆみの強い丘疹ができます。
- 掻くことで、次第にくっつき合い、盛り上がった紅斑になります。

掻くことをやめることで、症状は改善に向かいます。

写真提供：長野県立中央病院 中村 誠一

## 内因性湿疹

アトピー性皮膚炎など、アレルギーを起こしやすい体質や環境、または遺伝的な要素によって起こる皮膚疾患を指します。小麦や牛乳など食品アレルギーで起こる湿疹や、ハウスダスト等に触れることで起こる痒みなども、この内因性湿疹に該当します。

原因物質(アレルゲン)を避けることはもちろん、抗アレルギー薬の内服が必要になることも。症状が全身に広がるなど範囲が広い場合や、痒みで睡眠が妨げられている場合は受診していただきましょう。また、アトピー性皮膚炎は市販薬での適応がありません。



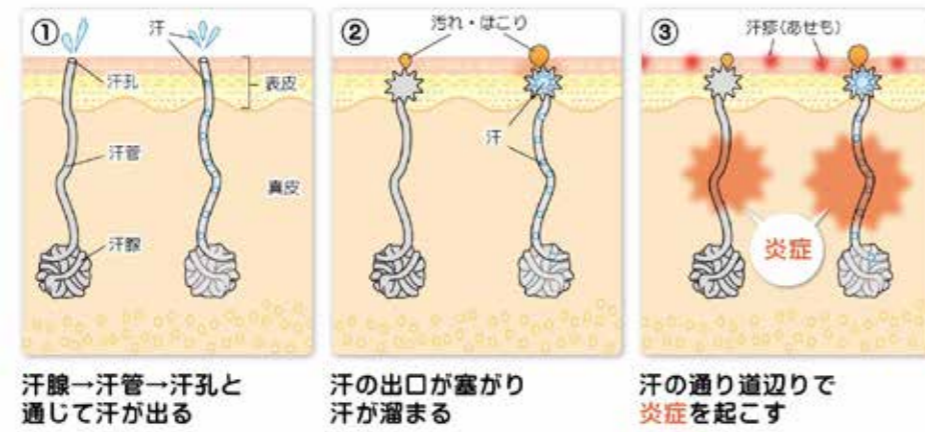
## 尋常性湿疹

接触性皮膚炎や脂漏性湿疹、ビダール苔癬、皮脂欠乏性湿疹、内因性湿疹を除く湿疹で、いわゆる「湿疹」と呼ばれるものを尋常性湿疹といいます。原因が不明なこともあります。

## あせも(汗疹)

あせもとは、大量の発汗に伴って、汗の正常な排出が妨げられることで起こる発疹で、汗を出すための管が詰まり、皮膚の中に汗がたまることで起こります。夏場などの高温多湿の環境下で起こりやすく、痒みのある赤く小さな発疹が、たくさん汗をかいた部位に急速に現れます。特に乳幼児や学童児などによく見られますが、大人にも起こります。

汗はすべて皮膚の外に分泌されるのではなく、内部で詰まってしまうことがあります



## 汗疹と間違われやすい汗疱(かんぽう)

汗疱とは、手のひらや足の裏にできる汗疹のことを指します。汗疱ができる原因は明らかではありませんが、汗が間接的に影響を及ぼしていると考えられています。症状が軽い場合は、特別な治療を施さなくてもおよそ2~3週間で治りますが、強い痒みや炎症がある場合には、ステロイド外用薬や抗ヒスタミンの内服薬を用いることもあります。



手のひらに発症した汗疱は、手荒れとの見分けがつきにくいこともあります。特徴や症状などを表にまとめましたので目安にしてください。通常、汗疱は痒みがほとんどありませんが、手荒れ(手湿疹)では強い痒みを生じることもあります。多くは手のひらだけでなく、手の甲にまで赤みや痒みが生じていることがほとんどですが、汗疱は手のひらや指先、指の間などに発症し、手の甲には生じないのが一般的ですので、見分けるポイントになります。汗疱は角質が厚くなっていることが要因とされているため、角質軟化作用を持つ尿素を治療に用いることもあります。

	汗疱	汗疱手荒れ
発症部位	・指先、手のひら、手指側面、足の裏	・指、手のひら、手の甲
特徴	・小さな水疱ができる ・水疱が破れて皮がむける	・ひび割れ、皮むけ、かさつき
原因	・原因不明(ストレスや多汗によるものとも考えられる)	・水仕事 ・ストレスによるもの ・薬剤や消毒液の使用
季節	・夏季に多い	・一年を通じて見られる
症状	・通常はかゆみ無し (周囲に紅斑を伴う場合かゆみや痛みを伴う)	・かゆみを伴う ・乾燥する
治療	・自然治癒 ・ステロイド薬によるケア	・ハンドクリームでケア ・処方箋によるケア



手荒れというと洗剤が原因というイメージがありますが、汗疱である場合もあります。

汗疱は手足にできる汗疹(あせも)です。手荒れとは少し症状や治療法が違ってきますので、上記で確認しておきましょう。

◀汗疱の症例写真(写真提供:アース皮膚科クリニック院長 木下順平先生)

## 貨幣状湿疹

貨幣状湿疹とは、コインのような円形の形状にちなんで名付けられたもので、直接的な原因は分かっていませんが、乾燥肌や虫刺され、接触皮膚炎などをきっかけに発症したり、それらを掻き壊すことがきっかけになって発症すると考えられています。秋から冬にかけて空気が乾燥する時期に発症しやすく、アトピー性皮膚炎の症状の一つとして、貨幣状湿疹が現れることもあります。境界線のはっきりした直径1~5cm程度の比較的大きな円形の湿疹が1個、もしくは複数できるもので、強い痒みがあります。掻いているうちに患部が広がって大きくなることもあるため、小さいうちに治療を開始することが重要です。一般的にはステロイド外用薬での治療が行われます。



## 皮脂欠乏性湿疹（乾皮症）

皮脂欠乏症（乾皮症）は、加齢によって肌のうるおいや皮脂の分泌が減少したり、石鹸で洗すぎるなどして、本来の保湿機能が低下することで生じる皮膚疾患の一種です。一般的な呼び名としては「乾燥肌」という名称が浸透しているかと思いますが、「乾燥肌」は皮膚疾患というより「体質」と捉えられていることも多く、特に若い世代では、保湿剤でセルフケアしている人が多いかもしれません。

ただ、皮脂の欠乏による肌のかさつきや痒みは、生活の質を著しく低下させることもありますし、悪化すると皮脂欠乏性湿疹を引き起こし、完治しにくくなりますから、保湿剤によるケアで改善しない場合は、適切に医薬品を使用したり、皮膚科の受診を促すこともあります。

高齢者の皮脂欠乏症を「老人性乾皮症」とも呼ぶことがあるように、皮脂欠乏症は高齢者の皮膚疾患という印象があるかもしれませんが、30代以降の比較的若い世代も発症します。

皮膚が乾燥して起こる湿疹で強いかゆみを伴います。

<b>症状</b> ・粉を吹いた状態 ・カサカサの肌 ・肌に亀裂が走る ・極きこわした後がある	<b>起こりやすい部位</b> すね、太もも、腰、わき腹などが挙げられます。
<b>原因</b> 皮脂分泌の低下に伴う皮膚の乾燥が生じることが原因です。	<b>対策</b> まずは保湿が大事です。とくに冬には、入浴後の保湿を心がけましょう。
<b>低下の理由</b> ・老化によるもの ・湿度の低下 ・冬の乾燥時期など	保湿剤

## 肌のうるおいを保つ3つの要素

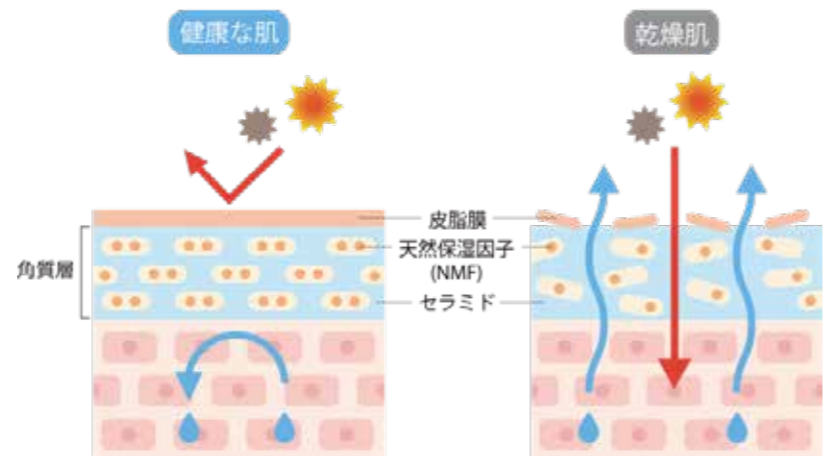
肌の表面には「表皮」があります。肌のうるおいを保つ3つの「保湿因子」は、表皮の一番上の層の「角層」にあります。この角層が、肌のバリア機能において大きな働きをしており、肌のうるおいは、基本的に下記の3つの要素によって保たれています。それぞれの役割について理解しておく、病態の把握や保湿剤の選択に役立ちます。

		補うための製品例
<b>皮脂</b>	皮脂腺から分泌される脂で、汗などと混じり合っています。皮膚の表面を覆う膜を「皮脂膜」といい、皮膚の水分の蒸発などを防ぎます。	プロバト、ベビーワセリンなど。
<b>角質細胞間脂質</b>	角質細胞と角質細胞のすき間を埋めるために作られる脂質で、「セラミド」などがこれにあたります。角質細胞同士をくっつけたり、水分を逃がさないようにします。	キュレル、ロコベース、アレルギー、ヒフミドなど。
<b>天然保湿因子 (NMF)</b>	ナチュラル モイश्チャーライジング ファクター (NMF) ともいわれ、角質層にあるアミノ酸などを指し、角質の中で水分を保持する性質を持っています。	ミノン、NOV、アレルギー、キュレルなど。

天然保湿因子と水分の結合を促す成分として市販されている保湿剤や外用薬の成分では、ヘパリン類似物質や尿素が代表的です。

これらは、天然保湿因子の役割を補い、アミノ酸と水分の結合を助け、水分を保持します。ヘパリン類似物質は、高い保湿力・血行促進・抗炎症作用などがあり、乾燥肌の根本的な解決にも役立つとして、医療機関でも長年使用されてきています。

また、手荒れや角化症、老人性乾皮症などに用いる外用薬では、尿素を配合した商品も多いですね。尿素には、皮膚表面の硬くなった角質を溶かして、柔らかくする角質軟化作用がありますので、ガサガサになった手や肘、膝、かかとなどのケアに適しています。



## 乾燥性敏感肌とは

気温や湿度といった環境の変化などにより乾燥状態になっていて、外部からの刺激に対する感受性が高くなっている肌を乾燥性敏感肌といいます。バリア機能が低下した肌は、水分が蒸発しやすいだけでなく、外からの刺激を受けやすい状態ですので、セーターなどの衣服で肌がチクチクしたり、ちょっとした刺激でも痒みや痛みを感じやすくなります。ケアせずに放置していると、皮脂欠乏症に発展することも。スキンケアに使用する化粧品や保湿剤は敏感肌用を使用するなど、刺激を与えないことが重要です。

## あかぎれ、ひび、しもやけ

あかぎれ、ひび、しもやけという言葉は知っていても、病態の違いは少し分かりにくいかもしれませんね。秋から冬にかけて気温や湿度が低下する時期には、皮脂の分泌が低下して、肌が乾燥しやすくなりますが、そういう時に水仕事などをすると、脂肪膜が洗い流され、手に付いた水と一緒に皮ふの水分も蒸発して、肌のうるおいがさらに少なくなります。

その状態で指の曲げ伸ばしなどをすると、指の背や手の甲などに亀裂が入りやすくなるのですが、この亀裂が「ひび」ですね。さらに肌の乾燥が進み、この亀裂（ひび）が深くなったものが「あかぎれ」で、あかぎれがひどい場合は、真皮が赤く露出して、痛みが伴うこともあります。



一方のしもやけは、秋から初冬、または晩冬から初春にかけて、気温が3~5℃と低く、かつ1日の寒暖差が10℃以上と大きい時期にできやすくなります。

**年齢別で見る凍瘡の発症傾向**

<b>子ども</b> 男女差なし。	<b>成人</b> 女性に多い。	<b>高齢者</b> 動脈硬化のある人に発症しやすい。
----------------------	---------------------	--------------------------------

**凍瘡のできやすい場所**

主に寒冷にさらされやすい手足や耳、頬です。足は靴で圧迫されているので、血行が悪くなる重症になりやすいです。

写真提供・監修：おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

もっとも寒さが厳しい真冬には意外にできにくく、春になると症状は自然に治まっていきます。遺伝的な要因や、栄養状態、締め付ける靴や衣服、寒冷湿潤環境なども一因と言われています。赤みや痒み強い場合は、ステロイド外用薬で対処しますが、皮膚の保護や保湿、体を温めて血行を促することも重要です。

memo



**症状**  
皮膚に赤みがかかり、盛り上がりが生じます。強いかゆみを感じます。



**蕁麻疹の種類**

<p><b>普通の蕁麻疹</b> 普通に膨疹が生じるもの。</p>	<p><b>特殊な蕁麻疹</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 食物依存性運動誘発アナフィラキシー</li> <li>● コリン性じんましん</li> <li>● ワインケ浮腫</li> </ul>	<p><b>口腔アレルギー</b> 食物摂取後、15分以内に口腔内に症状が現れる。</p>
---------------------------------------	---	---

写真提供・監修：おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

医薬品によって起こる「薬疹」や、食品アレルギーによって起こる蕁麻疹などがありますが、原因が分からない蕁麻疹もあります。皮膚の一部に紅斑が出てミミズ腫れのような「膨疹」ができるのが特徴です。1ヶ月以内に治るものを急性蕁麻疹、1ヶ月以上続くのを慢性蕁麻疹といいます。全身に広がっている場合や、痒み強い場合などは受診勧奨します。「膨疹」は、大きさや位置が変わることもあり、それぞれの大きさも一定ではありません。また、蕁麻疹と見分けが付きにくいものに「薬疹」があります。



**症状**  
ほぼ全身に、左右対称で紅斑や発疹が現れます。かゆみが伴う場合もあります。



ある薬を飲んでいて、全身にそして、広範囲に発疹が起きたら、薬疹を疑ってみても良いでしょう。

写真提供・監修：おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

薬疹は投与された薬剤が原因となって起こる症状で、全身に小さな赤みが多発したり、不定型な紅斑が出たりします。通常、全身または広範囲に左右対称で生じます。基本的に、受診勧奨します。

**おむつかぶれ**

赤ちゃんの肌トラブルの代表格ともいえる「おむつかぶれ」ですが、ウンチやおしっこの刺激でお尻が炎症をおこし、真っ赤に腫れたり、ブツブツができたり、ジュクジュクとただれることもあり、赤ちゃんの機嫌が悪くなったり、オムツ替えや入浴時に痛がって泣くこともあります。主に、排便回数の多い新生時期から起こり、月齢の低い乳児に見られます。おむつかぶれは、おむつがあたっている部分でおこる皮膚の炎症で、医学的には「おむつ皮膚炎」と呼ばれています。赤ちゃんの肌は薄く、角層のバリア機能が未熟なため、ちょっとした刺激にも反応しやすくなっています。また、さまざまな感染症を起こすこともあり、おむつかぶれとの見分けが付きにくいことも。患部の状態を確認できれば、違いや特徴が分かりやすいのですが、情報が少ない場合には小児科への受診を促すこともあります。



- 尿は時間が経つにつれ分解が進み、アンモニアが発生します。その刺激で皮膚に炎症が起きます。
- 下痢の時の便は皮膚にとって刺激が強いため注意しましょう。

- 症状**
- おしりやおむつが直接あたる部分に赤い湿疹ができます。
  - 悪化すると皮むけや痛みも起こります。
- 原因** おむつを長時間交換しないと起こります。
- おむつをこまめに取り替えて清潔を保ちましょう。
  - 下痢の時はシャワーで洗い流し、より清潔にします。

写真提供：吉永小児科医院 院長 吉永 謙一郎 医師

**おむつかぶれと間違いやすい感染症**

**皮膚カンジタ症**

乳児に多い皮膚炎として、カンジタ皮膚炎があります。カンジタ菌は皮膚の常在菌でもありますね。おむつかぶれと同じくお尻や陰部の周辺、脚の付け根あたりに生じ、真っ赤にただれることがあります。おむつかぶれと間違えてステロイド外用薬を使用すると、より悪化するため注意が必要です。



- カンジタ菌は健康な人の皮膚の表面の中にある常在菌で抵抗力が落ちたときに発症します。
- おむつの中はカンジタ菌が繁殖しやすくなっています。

- 症状**
- ひじやひざの内側、おしりや股の部分に赤い湿疹ができます。
  - シワやひだの奥まで湿疹ができます。
- 原因** カンジタ菌により皮膚に炎症が起きます。
- おむつかぶれの薬を使うと悪化する場合があります。
  - 自己判断による薬の使用は避けましょう。

写真提供：吉永小児科医院 院長 吉永 謙一郎 医師 / 「平成23年赤ちゃんの病気新百科」一部改変

**肛門溶連菌性皮膚炎**

肛門周囲が真っ赤になる肛門溶連菌性皮膚炎は乳児から幼児、学童期にも見られますが、大人も発症します。何度も続く下痢や汗をかいた後に、肛門周辺の皮膚の抵抗力が落ちてただれたり、身の回りには溶連菌や、白癬菌・カンジダ菌などのカビ類がはびこった結果起こるものです。おむつかぶれや、カンジダ皮膚炎と間違われることもあり、ステロイド外用薬を塗るとかえって悪化します。治療には抗菌薬の外用薬や、内服薬も必要になることもあるため、医療機関への受診を促します。



肛門溶連菌性皮膚炎による紅斑。肛門周囲に熱感のある鮮明な発赤が現れます。

## ✓ 細菌や真菌、ウイルスによって起こる皮膚炎

### とびひ

小さなお子さんによく見られる「とびひ」。正式な病名は「伝染性膿痂疹(でんせんせい のうかしん)」といい、**ブドウ球菌**や**溶血性連鎖球菌**などの菌が原因となって起こる皮膚疾患です。虫刺されや汗疹、すり傷などの患部に入りこんで繁殖します。最初は透明の水疱ができ、次第に膿疱となって皮がめくれます。かゆみをともなうことから小さいお子さんではガマンできずに掻いてしまい、浸出液が周囲に染み出て、症状が広がってしまうことがあります。悪化すると、患部の近くのリンパ節が腫れたり、発熱をともなうことも。市販薬では抗生物質やサルファ剤の軟膏が用いられますが、範囲が広い、症状が重い場合は受診推奨しましょう。



- 症状**
- かゆみを伴う水疱ができます。
  - 水疱が破れたあとは、赤くただれてかさぶたができます。
- 原因** 細菌(黄色ブドウ球菌や連鎖球菌)の感染で起こります。
- 入浴は控えてシャワーに切り替えましょう。
  - 他の人にも感染するので早めに受診しましょう。

写真提供: 吉永小児科医院 院長 吉永 隆一郎 医師

### 💡 化膿とは

本来は、「皮膚のバリア機能」によって、皮脂膜により細菌が繁殖しにくくなっているのですが、掻き壊すことで欠損した表皮から汚れや細菌が入り込んでしまうことがあります。つまり、バリア機能が働いていない状態の皮膚に細菌が侵入し感染、そこで細菌が増殖して炎症が悪化した状態が化膿です。

抗生物質が配合された薬は、赤くただれる(びらん)、小水疱や膿疱(ウミが溜まる)といった患部への使用が適しています。化膿している(しかけている)サインは、「痛み」や「熱感」。店頭では、「痛みが強くなった」「赤みや腫れがひどくなった」などと相談されることがあります。

化膿を伴う皮膚トラブルには、大きく分けて2つあり、その背景によって薬剤を使い分けます。

- 1 湿疹・皮膚炎のかき壊しによる化膿**  
(汗疹や虫刺されなどがベースにある) ▶ **抗生物質+ステロイド配合の薬を使う**  
(フルコートF、ベトネベートなど)
- 2 外傷から細菌感染しておこる化膿**  
(すり傷や火傷などの外傷がベースにある) ▶ **抗生物質やサルファ剤を使う**  
(ドルマイシン軟膏、テラマイシン軟膏など)

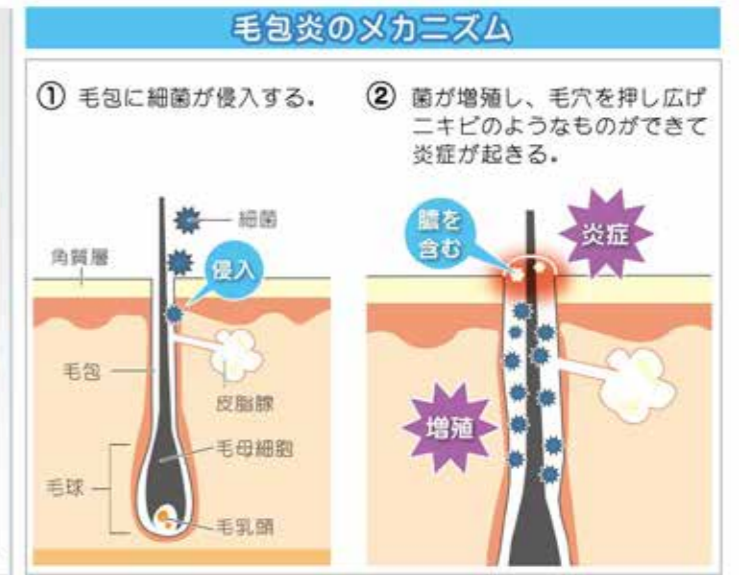


### 毛包炎

毛包炎は、毛穴の奥の毛根を包んでいる部分(毛包、毛嚢)に起こる炎症で、毛包部にできた小さなキズ(ひげ剃り、ムダ毛処理のカミソリ負けなど)から**黄色ブドウ球菌**などの細菌が感染することによって起こります。また、また、皮膚の常在菌(真菌)でもある**マラセチア菌**が毛包内で増殖して炎症を引き起こす場合もあり、これを「マラセチア毛包炎」と呼びます。



腹部などに多発した毛包炎  
中央がやや盛り上がり、よく診ると膿があります。



写真提供・監修: おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

デコルテや背中などのできる赤ニキビのほとんどは、このマラセチア毛包炎だと言われています。いずれも、ステロイド外用薬の使用により悪化することがあり、範囲が広い場合には皮膚科への受診を促します。毛穴の部分に赤みを帯びた盛り上がりが見られ、膿が確認できることもあり、チクチクと軽い痛みを伴うことがあります。全身のどこにでもできますが、1つだけポツンとできることもあれば、多発することもあり、首の後ろや太もも、背中、お尻などに比較的好く見られます。

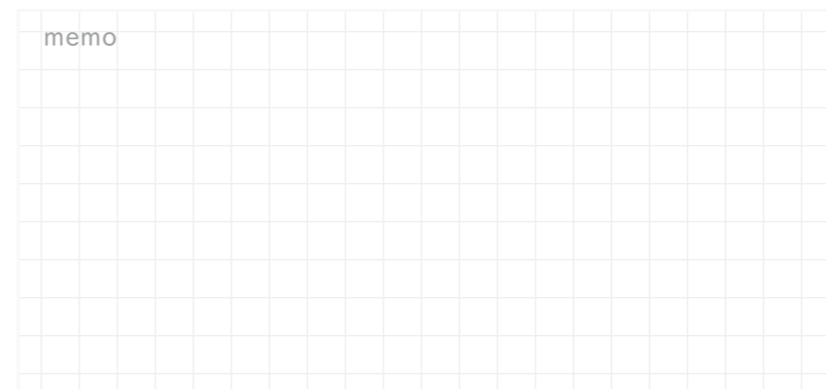
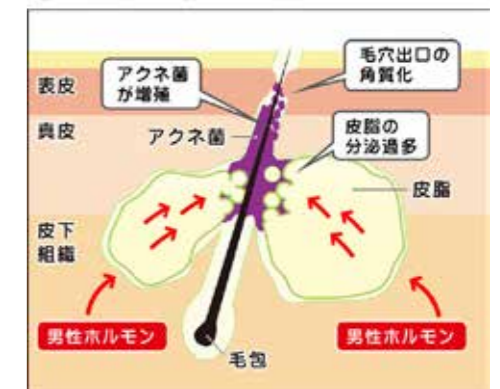
### ニキビ

毛包炎とニキビとの違いが分かりにくいかもしれませんが、いわゆるニキビとは「尋常性ざ瘡(じんじょうせいざそう)」のことで、毛包炎とは病態が異なります。ニキビは、主に顔に発症し、毛包に付着している皮脂腺から排出された皮脂が毛穴の中に溜まって引き起こされる肌トラブルです。典型的な症状としては、毛穴が詰まって皮膚の表面がざらざらした状態の面皰(めんぼう)、炎症が軽い段階の赤ニキビ、さらに進行すると膿がたまる黄ニキビに分類されます。炎症には、皮脂を好む**アクネ菌**が関与しています。

### ニキビが出来る仕組み



### 思春期ニキビの肌




## 癬風 (でんぷう)

**癬風菌 (マラセチア菌)**という皮膚に元々常在しているカビが原因で起こる皮膚疾患で、汗などによって増殖して発症します。茶色いシミのような斑点ができて広がります。

胸、背中、脇などに多くみられ、自覚症状はほとんどないか、あっても軽度のかゆみがあるくらいです。

肥満や糖尿病、免疫抑制剤を投与中の方にもみられますが、20～40代の健康な方で汗をよくかく方や、脂症の肌質の方にも多くみられます。ステロイド外用薬の使用で悪化することがあり、皮膚科で抗真菌薬などを用いて治療します。



**体幹部に生じた癬風**  
若年者の体幹部は好発部位です。腹部は茶色の黒癬風、胸部はやや赤い色調です。

**発症傾向**

- 子供からお年寄りまで、
- 20～40代に多い。
- 男性にやや多く見られる。

**好発部位**

- 背部 ● 胸部
- 頸部 ● 上腕
- 腋窩など。

**症状**

鱗屑(皮膚表面からはがれかけている角質)が現れ、円形または楕円形の**淡褐色斑(黒色癬風)**か**脱色素斑(白色癬風)**が見られます。

**鱗屑** **黒色癬風** **白色癬風**

写真提供・監修：おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

## 脂漏性湿疹

皮脂の分泌過多によって起こる湿疹で、特に皮脂の分泌が活発な顔のTゾーンや、頭皮などに起こりやすくなります。患部は赤みがあり、やや黄色味を帯びた湿り気があるフケ、または乾燥したウロコ状のフケが出ます。皮膚の常在菌でもある**マラセチア菌**(カビ)の一種が脂漏性皮膚炎の発症に関わっているといわれており、ステロイド成分の使用でも症状が改善しない、もしくは悪化することがあります。



**乳児期に多く、思春期以降の成人でも発症しやすいです。**

**乳児期**

- ひたいから頭にかけたの部位に多い。
- 乳児の時期を過ぎるとほぼ治る。

**成人**

- 眉周囲、鼻翼部分、口の周囲に症状が出る。
- 完治しにくく慢性化しやすい。

● 左右対称に症状が現れる特徴があります。

● 汗や摩擦の多い部分に症状が出やすいです。

写真提供・監修：おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

通常、痛みはなく、ほとんどの場合痒みもありませんが、浸出液や皮脂などでベタベタしたり、フケを生じることで不快感を感じて店頭で相談に来られることがあります。頭皮湿疹と間違われることがありますが、市販薬では対応できないため、受診勧奨してください。

## 水虫

水虫は、**白癬菌**という真菌が皮膚の角質層に感染、寄生することによって生じる感染性の皮膚疾患です。白癬菌は人間や動物などの皮膚の角質層に寄生するカビの一種で、角質の成分であるケラチンという蛋白質を栄養源にしています。

カビの一種と言いましたが、このカビを医学用語では「**真菌**」と言い、真菌によって起きる皮膚病を「**皮膚真菌症**」といいます。さらに、皮膚の角質層に寄生する真菌を「**皮膚糸状菌**」と言い、この皮膚糸状菌の代表的なものが**白癬菌**なのです。白癬菌は、人間のアカが落ちるほとんどの場所に生息しており、湿度の高いジメジメしたお風呂場のマットや靴の中などを好みます。

### 足水虫(足白癬)

水虫の患者さんの7割は足水虫だと言われており、いくつかのタイプがあります。

**1 趾間型** しかんがた **趾間型水虫**

**発症する場所** 指の間。特に、密着しやすい薬指と小指の間に多く見られる。

**症状** 皮膚がふやけて皮が剥ける。痒みを伴い、赤くただれて痛みが出ることもある。また、強い臭いを発生させるのも、趾間型水虫の特徴。

※患部を不衛生にしていると二次感染を起こすこともあるため、注意が必要。  
※冬場の発症は少なく、梅雨や夏場の湿度の高い時期によく見られる。

**2 小水疱型** しょうすいほうがた **小水疱型水虫**

**発症する場所** 足の側面や土踏まず

**症状** 赤みを帯びた小さな水疱ができる。強い痒みを伴い、掻きむしって水疱が破裂すると患部が化膿したり、強い痛みが出ることもある。

※冬場の発症は少なく、梅雨や夏場の湿度の高い時期によく見られるタイプ。

**3 角質増殖型** **角質増殖型水虫**

**発症する場所** かかとなど足の裏全体。

**症状** かかとや足の裏全体の角質が厚くなり、皮膚が剥がれ落ちやすくなる。痒みなどの自覚症状はほとんどない。慢性化しやすく、治りが遅い。

※高齢の男性に多く見られ、一年を通して発症。空気が乾燥する冬場に悪化することも。

**1** **2** **3**

趾間型(1)と小水疱(2)に同時にみられることもありますが、角質増殖型(3)と小水疱(2)が同時にみられることはありません。

### 水虫かどうか分からない時は受診勧奨

水虫に似た湿疹やかぶれもあり、誤って水虫薬を使用してしまうと患部の状態が悪化しますが、その逆に、水虫にステロイド成分などを使用した場合にも、症状が悪化します。足にはさまざまな皮膚炎が生じるため、店頭で水虫との切り分けを完璧に行うことは困難です。水虫の診断には皮膚科での顕微鏡検査が必要ですので、受診勧奨します。

**水虫**

水虫の診断には顕微鏡検査が必要です。

**水虫ではない**

第4趾間 足の裏 第4趾間 足の裏 掌跖膿疱症 足の裏

異汗性湿疹(あせも) 異汗性湿疹(あせも)

写真提供・監修：おゆみ野皮膚科クリニック 院長 中村 健一



## 爪水虫(爪白癬)

足や手の爪に発症する水虫で、特に高齢の方々によく見られますが、若い人でも罹ることがあります。市販薬での治療は難しく、爪水虫を治療できる市販の水虫薬は現在のところありません。内服薬の投与も必要のため、受診勧奨します。



## その他の水虫

手	<p>名称: <b>手白癬</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 通常、手だけに発症することは少なく、足や股部の水虫を手で掻いているうちに感染してしまうことが多いようです。</li> </ul>
頭	<p>名称: <b>頭部白癬(しらくも)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 頭部(地肌)に発症。激しい痒みがあるのが特徴で、地肌に白いかさぶたのようなものができることから「しらくも」と呼ばれています。フケのようなものがポロポロと落ちることがあり、頭皮湿疹と間違われることもあり、注意が必要です。</li> </ul>
股部	<p>名称: <b>股部白癬(いんきんたむし)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 股部や陰囊(いんのう)の付け根付近、お尻などに感染・寄生したものです。患者のほとんどが男性です。</li> <li>● 陰囊は「いんきんたむし」にならないと言われています。通常、陰囊(いんのう)に痒みやただれがある場合は、陰囊湿疹であることが多く、水虫薬を塗ると湿疹が悪化することがありますので、注意が必要です。</li> </ul>
体部	<p>名称: <b>体部白癬(ぜにたむし)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 背中、腹部など比較的広い部分に発症し、リング状の皮疹が浮き上がるのが特徴です。顔や胸、首などに発症するケースもあります。乳幼児から高齢者まで、さまざまな年齢層の患者がいます。</li> </ul>

店頭での見分けが特に難しいのは、頭部白癬(しらくも)です。脂漏性湿疹や頭皮湿疹と症状が似ていて、特に初期の頃は肉眼では見分けが付きませんが、症状が進むにつれてしろいかさぶたのようなものができ、フケとなって落ちます。進行すると徐々に髪の毛が抜けます。治療開始が遅れると治りも遅いため、早期に受診勧奨してください。

頭部白癬が重症化すると、このように脱毛症状となり、病変部から排膿します。膿汁、鱗屑には白癬菌が多数観察されます。抗真菌薬の内服が必要です。



ケルスス禿瘡・頭部白癬の重症化例  
写真提供 監修:おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

## 単純ヘルペス



**唇周辺の水泡**

- 乳幼児で初めて発症すると重症になる場合もあります。
- アトピー性皮膚炎の患者は、より重症のカポジ水痘様発疹になることもあります。

**症状** 唇の周辺や口内に、痛みを伴う小さな水泡が複数できます。(放置しておくと症状が悪化します。)

**原因** 単純ヘルペスウイルスの感染によります。

症状の悪化を防ぐために水泡に触らないようにします。水泡が集中してできているときはすぐ受診しましょう。

出典元: Takahisa Sakuma "Infant and Children's Pharynx and Skin with infectious Diseases" p.80  
写真提供・監修:おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

単純ヘルペスウイルスには1型と2型の2つのタイプがあり、1型は唇、顔面などの上半身に、2型は性器を中心とする下半身に主に発症します。唇に発症するのが、いわゆる「口唇ヘルペス」で、唇やその周囲に小さな水泡ができます。直接的な接触のほかウイルスがついたタオルや食器などを介しても感染します。家族間で感染することがありますが、一度治っても、疲労や風邪、紫外線、胃腸障害、ストレスなど、免疫力の低下などによって再発を繰り返すことも。再発の場合には、市販の口唇ヘルペス治療薬を使用することができます。

## 帯状疱疹



**症状** 皮膚にチクチクしたような痛みが起こり、次に赤い発疹ができて、小さな水ぶくれ(水疱)が帯状に広がります。

**痛み** **赤い発疹** **水ぶくれ**

**好発部位** ● 胸部 ● 腹部 ● 背部

**特徴**

- 1度に2か所以上の場所に現れることはない。
- 症状が現れるのは体の左右どちらかだけ。

写真提供・監修:おゆみ野皮膚科 院長 中村 健一

帯状疱疹は、水ぼうそうと同じウイルスで起こる皮膚の病気で、体の左右どちらかの神経に沿って、痛みを伴う赤い発疹と水ぶくれが多数集まって帯状に生じるのが特徴です。症状の多くは上半身に現れ、顔面、特に目の周り、頭皮にも現れることがあります。店頭でも比較的相談が多いですから、特徴を覚えておきましょう。

## 外傷

店頭で相談が多い外傷には「すり傷」「切り傷」「火傷」などがあります。稀に、刺し傷、動物に噛まれた傷など、比較的重い事例の接客や、怪我をした直後に応急処置をするために慌ててご来店されるケースも。「傷は消毒をしない」ことが主流になってきたこともあり、「消毒をした方がいいのか?」「何を貼ったらいいのか?」など、対処法について質問されることが多くなったと思います。小さな傷や浅い傷は、放っておいても自然に治ることがありますが、深い傷の場合は治るまで時間がかかったり、傷痕が残ってしまうこともあるため、店頭では「早く治したい」「傷痕を消したい」といったご要望もあります。

## 外傷において医療機関を受診した方がいいケース

- ✓ ガラスや木の枝などで切った切り傷(傷口に破片が残っている可能性)。
- ✓ 外傷の範囲が広い(すり傷、火傷など)。
- ✓ 農作業中の怪我(切り傷、すり傷など)。
- ✓ 動物に咬まれた傷。
- ✓ 刺し傷(釘、木の枝など)や深い切り傷。出血が止まらない傷など。
- ✓ **糖尿病**と診断されている人。

## モイストヒーリング(湿潤療法)

湿潤療法とは、体が本来持っている自己治癒力を最大限に活かし、痛みを取りながら、早く、きれいに傷を治す治療法です。ここ数年で主流となりつつありますが、傷の状態によっては湿潤療法が行えないこともあります。

傷を消毒し、ガーゼを当てて乾燥させる従来の治療法とは違い、傷を水道水等で良く洗った後に被覆材で覆い、乾燥させずに治療を行います。また、湿潤療法では消毒を行いませんが、消毒しないことで、傷口やその周辺の正常な細胞が破壊されることを防ぐことができ、傷が早く治るのを助けます。

キズパワーパッド(バンドエイド)など、湿潤療法用の絆創膏が多く市販されていますが、商品ごとにサイズや形が異なります。傷の大きさや部位、状態に応じて提案していきましょう。





## ✓ 皮膚外用薬に配合される主な成分

### ステロイド性抗炎症成分

ステロイド成分を必要以上に怖がる人も少なくありませんが、正しく使えば非常に有益な成分ですので、その性質や効能・効果、用法・用量を正しく理解し、情報提供できるようにするといいですね。基本的に、ステロイド成分は体の一定の範囲に対して短期間使用するもので、広範囲に使用したり、長期間に渡って使用するものではありません。1日に1～2回、5日ほど使用しても効果が得られない場合は受診していただくようにしましょう。

赤字の商品名は市販薬

<b>strongest</b> (最強)	<b>プロピオン酸クロベタゾール</b> ・デルモベート(グラクソ・スミスクライン) <b>酢酸ジフロラゾン</b> ・ダイアコート(ファイザー) <b>ジフロラゾン酢酸エステル</b> ・ジフラル(アステラス製薬)
<b>very strong</b> (非常に強い)	<b>ジフルブレドナート</b> ・マイザー(田辺三菱製薬) <b>ジプロピオン酸ベタメタゾン</b> ・リンデロン-DP(塩野義製薬) <b>吉草酸ジフルコルトロン</b> ・テクスメテン(佐藤製薬) ・ネリゾナ(バイエル薬品) <b>フルオシノニド</b> ・トブシム(田辺三菱製薬) <b>フランカルボン酸モメタゾン</b> ・フルメタ(塩野義製薬) <b>酪酸プロピオン酸ベタメタゾン</b> ・アンテベート(鳥居薬品)
<b>strong</b> (強い)	<b>ベタメタゾン吉草酸エステル</b> ・ベトネベート(第一三共ヘルスケア) ・リンデロンVs(塩野義製薬) <b>吉草酸デキサメタゾン</b> ・ボアラ(マルホ) <b>フルオシノロンアセトニド</b> ・フルコートF(田辺三菱製薬) <b>吉草酸酢酸プレドニゾロン</b> ・リドメックス(興和)
<b>mididium</b> (やや強い)	<b>プレドニゾロン吉草酸エステル酢酸エステル【アンテドラッグ】</b> ・ムヒアルファEX(池田模範堂) ・プレバリンα軟膏(ゼリア新薬) ・メンソレータムメディクイック(ロート製薬) ・オイラックスPZ軟膏(第一三共ヘルスケア) ・アレルギールSK(第一三共ヘルスケア) ・リビメックスコーワ(興和) ・コートf AT(田辺三菱製薬) <b>ヒドロコルチゾン酪酸エステル</b> ・セロナ軟膏(佐藤製薬) ・ロコイダン軟膏(クラシエ)
<b>week</b> (弱い)	<b>ヒドロコルチゾン酢酸エステル</b> ・ドルマイコーチ軟膏(ゼリア新薬) <b>デキサメタゾン酢酸エステル</b> ・ムヒアルファSII(池田模範堂) ・液体ムヒSa(池田模範堂) ・タクトプラスクリーム(佐藤製薬) ・オイラックスDX軟膏(第一三共ヘルスケア) ・ウナコーワクルα(興和) <b>ヒドロコルチゾン</b> ・テラ・コートリル軟膏a(ジョンソン・エンド・ジョンソン) <b>プレドニゾロン</b> ・コートf MD(田辺三菱製薬) <b>プレドニゾロン酢酸エステル</b> ・アレルギールクリーム(第一三共ヘルスケア)

### ステロイド以外の成分

<b>痒みを抑える</b>	抗ヒスタミン成分	ジフェンヒドラミン塩酸塩、クロルフェニラミンマレイン酸塩など
	局所麻酔成分	リドカイン、ジブカイン塩酸塩、アミノ安息香酸エチルなど
	局所刺激成分	クロタミトン、dl-カンフル、l-メントールなど
<b>炎症を抑える</b>	非ステロイド性抗炎症成分	ウフェナマート、グリチルレチン酸、紫雲膏など
<b>掻き壊しなどによる二次感染の防止</b>	殺菌成分	イソプロピルメチルフェノール、クロルヘキシジングルコン酸塩、ベンゼトニウム塩化物、アクリノールなど
	抗菌成分	フラジオマイシン硫酸塩、パシトラシン、オキシテトラサイクリン塩酸塩、ポリミキシンB硫酸塩、クロラムフェニコール、コリスチン硫酸塩、ナイスタチン(抗真菌成分)など
<b>水虫</b>	抗真菌成分	塩酸ブテナフィン、塩酸テルビナフィン、ラコナゾール、塩酸アモロルフィンなど
<b>傷ついた皮膚の修復や保護</b>	組織修復成分	アラントイン、酸化亜鉛など
	保湿成分	尿素、ヘパリン類似物質など
	血行促進成分	トコフェロール酢酸エステルなど

### ステロイドの部位による使い分け



部位によって、お薬を吸収する度合いが異なるため、患部がどこかによってステロイドのランクを使い分けることもあります。肘の内側のあたりを1とした場合の比率で見ると、手のひらや足底などの皮膚の硬いところでは吸収があまり良くないのですが、首や顔、頭皮、デリケートゾーンなどでは非常に高いのが図でも分かると思います。

同じ成分を使用しても、使用する部位によって吸収される薬剤の浸透が異なるということですので、吸収率が高い部位では使用を避けたり、塗る範囲やステロイドのランクなどを考慮します。また、乳幼児は、角質層が未熟なために刺激に弱かったり、大人と比べて皮脂の分泌が少ないなど、皮膚のバリア機能も未熟です。大人よりも薬剤が浸透しやすいため、顔や首、陰部などの吸収率が高い部位では特に慎重に使用します。

ステロイドの使用法としては、最初にやや強めのランクを用いて症状を抑え、その後ランクを下げる「ステップダウン方式」が一般的です。また、使用年齢によるランクの目安も参考にしてください。

ステロイド外用薬の使用に不安を抱く消費者から、非ステロイド剤を希望されることもありますが、非ステロイド剤は軽症での使用が一般的です。ステロイド外用剤のように広範囲への使用や長期連用への制限がなく、感染部位に使用できるなど、使い勝手は良いのですが、炎症が起こるメカニズム自体にはなく、結果として生じた症状を鎮めることになるため、炎症の根本を抑制していない分、薬の効き目が穏やかになります。一般的に、非ステロイド剤は顔のかぶれ、デリケートゾーンの痒みなどに適しています。

### セルフメディケーションにおける外用ステロイドのランク選択の目安





3 20代 男性  
背中全体に赤い湿疹のようなものがあり、あまり痒くはないのですが、範囲が広いので気になっています。

確認すること	
選択できる商品	
その他、 情報提供 できること	

4 30代 女性  
手荒れがひどく、手のひら全体がかさかさして痒みも強いです。  
夜、布団に入るとさらに痒くなり、眠れないので困っています。

確認すること	
選択できる商品	
その他、 情報提供 できること	

5 50代 男性  
水虫と診断されて水虫薬を塗ったら、すぐに治ったのですが、その1ヶ月後にまた同じ症状が出ました。  
また水虫薬を塗った方がいいですか？

確認すること	
選択できる商品	
その他、 情報提供 できること	

6 40代 女性  
数日前にアイロンで火傷をしました。  
一旦良かったように見えたのですが、また痛みが強くなってきました。

確認すること	
選択できる商品	
その他、 情報提供 できること	

memo

